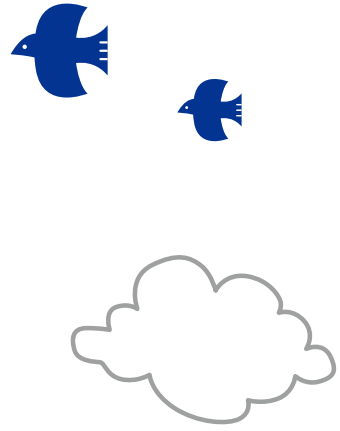



# 2022



 **愛知淑徳大学**  
コミュニティ・コラボレーションセンター

長久手キャンパス  
〒480-1197  
愛知県長久手市片平二丁目9  
TEL (0561) 62-4111(代表)

星が丘キャンパス  
〒464-8671  
名古屋市千種区桜が丘 23  
TEL (052) 781-1151(代表)

# CCC

## 活動報告書

**愛知淑徳大学**  
コミュニティ・コラボレーションセンター



2022 年度CCC活動報告書  
発行：愛知淑徳大学  
コミュニティ・コラボレーションセンター

# コミュニティ・コラボレーションセンター (CCC) とは

愛知淑徳大学の理念「違いを共に生きる」に込められた思いを受け継ぐコミュニティ・コラボレーションセンター (CCC) は、「地域に根ざし、世界に開く」という姿勢で、学生の実践力を育む「教育」と、学生の自主活動を支える「支援」に取り組んでいます。

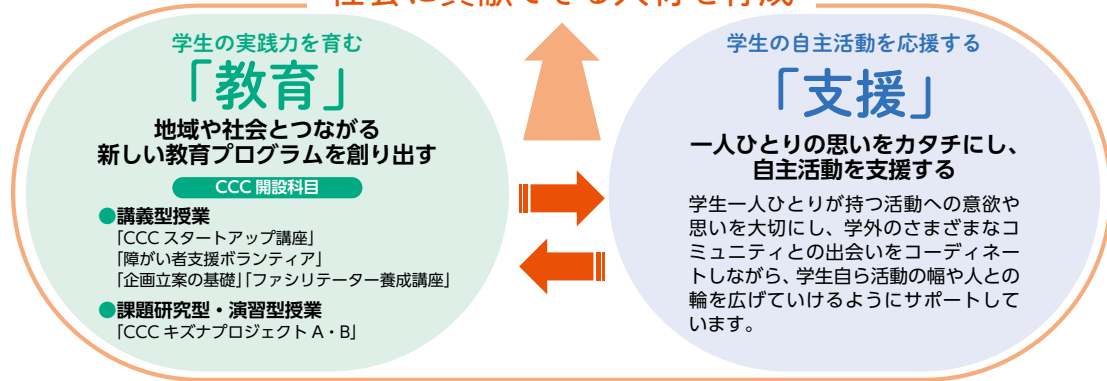
学生一人ひとり、輝く個性や未来を拓く力を持っています。その大きなパワーを地域での「体験」や「実感」を通して引き出すのが、CCCの役割。学生の様々なコ

ミュニティと連携を強め、地域社会と大学の活性化を図ること、そして、これから社会へ羽ばたく学生たちの視野を広げ、人間力や社会に貢献できる人材になるための力、生きる力を育むことをめざしています。

CCCから地域、社会、世界へ飛び出した学生は、様々な人と交流を深めながら共に活動し、「違いを共に生きる」社会の実現に向けた新たな風を次々と起こしています。

## CCCの学生育成ビジョン

広い視野と行動力、豊かな人間力を持ち、  
社会に貢献できる人材を育成



【図】CCCの学生育成ビジョン

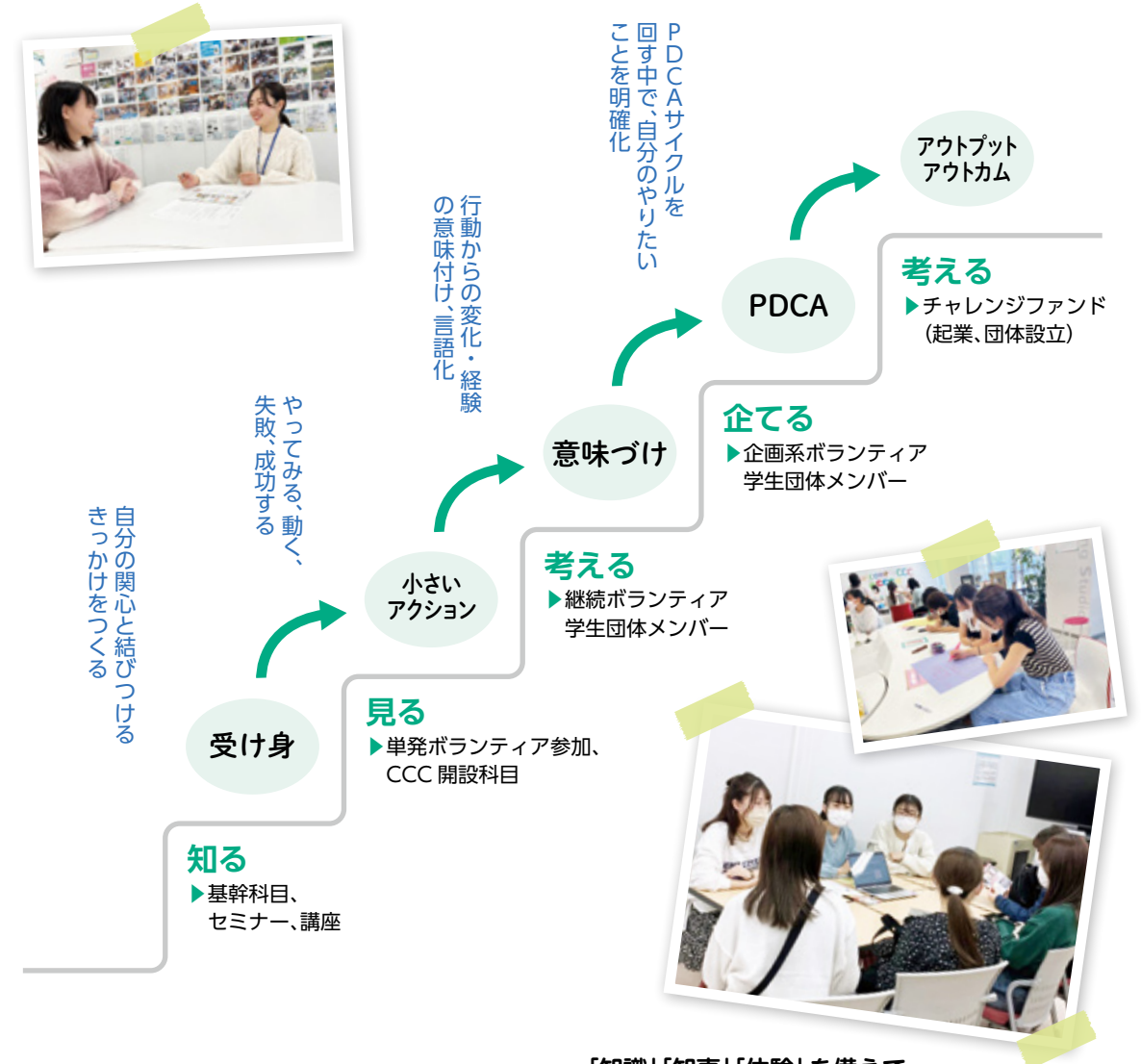
## CCCの特色

- 「地域や社会に貢献したい」という思いに応える教育カリキュラム**  
CCCでは、企業やNPOが実際に抱える課題をグループで解決していくPBL (課題解決) 型授業、ボランティア活動やまちづくりに関する基礎知識を学ぶ講義型授業などを通して社会貢献活動について学びます。
- 地域の多種多様なボランティア活動へのマッチング**  
地域の行政機関、企業、NPOなどからボランティアの募集情報が届きます。CCCでは、学生の思いに耳を傾け、それに合わせたボランティア活動を紹介・支援しています。
- 学生が企画・運営する地域活動をサポート**  
CCCでは、地域での課題を自ら発見し、それらを解決するために、数多くの学生団体が活躍しています。活動に行き詰まった場合は、CCCスタッフが寄り添い、一緒に課題の解決を目指します。



活動のイメージを伝えるために、コロナ禍前の写真を用いております

## CCCで提供していること／もの



学生たちは、大学に入学するまでに様々な経験をしています。その体験や経験をヒアリングし、彼らの今後の「自分らしさ」を共に探りながら、将来のなりたい自分にSTEP UPしていく流れを支えています。

学生自身が、この次のステップを様々なプログラムから選ぶこと、また創り出すことができるよう対話や活動をおこないます。この流れを行き来する中で、学生たちは「生きるチカラ」を自分のモノにします。

### 「知識」「知恵」「体験」を備えて

「知る」こと(知識)は、「行動」を起こす原点です。外部からの情報を様々な形で取り入れます。「見る」ことで、よりリアルを受け取ります。「知識」は外部からですが「知恵」は自分の中で創り出す力。問題に応じて知識を活かすことができる「知恵」を身につけます。「知恵」を活用して考え、企画したことを実践し「体験」してみる。覚えた知識を語るよりも体験して得たものは、人からの「共感」を呼び、仲間が増え、自分を、社会をCHANGEさせます。

# 目次

- ① 2022年度 特別報告「コラボメッセ」 ..... 5・6
- ② 2022年度 活動実績 ..... 7
- ③ センターの取り組み ..... 8
  - 3.1 カリキュラム ..... 8・9・10
  - 3.2 活動サポート ..... 11
    - (1) マッチング ..... 12・13・14
    - (2) 自主活動の支援 ..... 15・16
    - (3) チャレンジファンド ..... 17
- ④ 学生スタッフの活動 ..... 18
- ⑤ 2022年度 全体講評 ..... 19
- ⑥ 初めてボランティアを募集される方へ ..... 19

## Information

2016年2月  
「CCC labo」開設

本書にて紹介しきれなかった学生たちの活動の様子を、特設サイト「CCC labo」にて発信しています。

ぜひご覧ください。



◀ QRコードまたは  
CCC labo nagoya  
で検索!

みんなの笑顔で、地域を変えよう！  
活動の様子を絶賛公開中！



## ① 2022年度 特別報告

### 1.1 コラボメッセ



2022年12月17日(土)に、行政機関、企業、NPOなど(以下、CCC連携団体)の皆さまと一堂に会する第8回「コラボメッセ」をおこないました。今年は3年ぶりの対面開催となりました。人々との「つながり」を再確認できる時間となりました。

#### オープニング フラダンス披露

開演セレモニーとして、愛知淑徳大学サークル「oluolu」によるフラダンスの披露をおこないました。学生の衣装は卒業生でもあり、現在株式会社デンソーに勤める大海さんからご寄付いただいたものです。彼女は東日本大震災の後、会社内で震災支援活動をおこなうフラダンスサークルを立ち上げ、ボランティア活動を8年間続けられていました。震災から10年を区切りに、サークルは活動休止となりましたが、その想いを伝え聞いた学生たちが大切に衣装を使わせていただいております。

人を大切に想う「つながり」は、続けていけば途切れずに形になっていくのだと感じた瞬間でもありました。



#### 第1部 講演「一人一人が生きていく力を信じて ～若手官僚のチャレンジ～」

フラダンス披露の後は、長久手市役所 市民直轄組織 地域共生推進課の國信綾希さんに「一人一人が生きていく力を信じて～若手官僚のチャレンジ～」のご講演をいただきました。國信さんは厚生労働省で働かれており、現在は長久手市に出向されています。「地域共生社会」と言葉で聞くのが当たり前になりつつある社会ですが、実際どのようにそれが実践さ

れているのかを制度、実施例をふまえてお話をしていただきました。また、國信さん自身が「なぜ厚労省の職員を目指したのか」をうかがいました。その中で様々な体験が、物事に対して「わたしのこと」から「わたしたちのこと」にどう変わっていくかのヒントをいただきました。この講演が、学生たちがこれから歩む社会の道筋となることでしょう。





## 第2部 活動発表

学生団体29組、CCC連携団体26組が参加しての活動発表。それぞれ関心のある団体と積極的に交流をおこないました。ここでの交流を通じて、新たな連携の話があがるなどの新しいつながりも生まれています。



### 参加学生の感想

コラボメッセでは「食と食品ロス」ブースを担当し、子ども食堂や廃棄食材の再利用のために青果店とカフェを取り持った活動について説明しました。食に関する問題や解決方法だけでなく、人と人のつながりの大切さも伝えることを心がけました。また、ボランティアを続けている社会人参加者との交流を通じて、卒業後も社

会貢献活動を続けたいという気持ちが強くなりました。コラボメッセは、参加者に気づきを与えてくれるだけでなく、自分の取り組みを客観的に見つめ直し、今度の活動ビジョンを明確にできた良い機会になったと思います。

健康医療科学部 4年 梅津 真衣

### 連携先からのコメント

今回のブースでは、弊社社員による主体的な自主活動の具体的な事例を紹介しましたが、それにも増して、学生の皆さんとの交流や活動をお聞きし、大変刺激を受けました。学生の皆さんによる身近な課題から未来を考えるアンテナの高さやその行動力から、数多くの学びを得ることができました。また、あらためて「面着でつながる場」の重要性を再認識

することができました。今回は、当イベントにご招待いただき誠にありがとうございました。CCCの皆さんのこれからの益々のご活躍を心より祈念します。

株式会社デンソー 総務部 ソーシャルリレーション室  
社会貢献推進課 山田 昌代

### ご協力をいただいた連携団体・他大学学生団体の皆さま

アジア車いす交流センター(WAFCA)、アスクネット、草の根ささえあいプロジェクト、下呂市、コカ・コーラ ボトラーズジャパン、こどもNPO、中部プロボノセンター、デンソー、東邦ガス、豊田市青少年センター、トヨタ自動車 ボランティアサークルJDRトヨタ、豊田市 国際まちづくり推進課 コネクト、長久手市 地域共生推進課、なごや環境大学、名古屋市社会福祉協議会、名古屋市障害者スポーツセンター、名古屋市総務局(ナゴ校)、名古屋市千種区社会福祉協議会、名古屋市名東区社会福祉協議会、西尾市 交流共創部 佐久島振興課、日進市 市民協働課 にぎわい交流館、ボラみみより情報局、ヤクルト東海、楽歩、レスキューストックヤード

愛知学院大学ボランティアセンター、名城大学、名古屋学院大学、Aivo(愛知大学)、BLUE WALK、FIWC東海委員会(南山大学)、musbun(椋山女学園大学)、Windra(ナゴ校)

※あいうえお順、法人名省略

## 2 2022年度 コミュニティ・コラボレーションセンター 活動実績

### 利用状況

CCC登録者人数 598人  
利用者数 延べ11,679人  
(内オンライン33人)

**登録利用者参加者** ボランティア活動に参加するためのCCCへの登録  
情報取得、活動の相談、ランチタイム企画参加、ミーティングなどで来室する学生  
連携団体から募集があったボランティア活動にCCCを通して申込み・参加した学生、または学生団体などの自主活動に参加した学生

### 募集型ボランティアへの参加者数

※(分野別)

年度	国際交流・協力	青少年育成	まちづくり	福祉	環境	震災支援・防災	学生団体	SDGs	その他	計
2022年(対面)	243	225	15	120	99	17	693	50	201	1,663
2022年(非対面)	164	4	0	0	0	0	9	0	0	177
2021年(対面)	59	46	8	46	16	0	290	-	0	465
2021年(非対面)	164	12	0	9	0	0	199	-	5	389

### 産学官連携事業 (抜粋)

- 愛知県との連携  
かがやけ☆あいちサスティナ研究所の研究者として本学学生が参加

### 受託事業 (抜粋)

- 長久手市大学連携推進ビジョン4U(委託者:長久手市)
- 大学連携講座(委託者:日進市)
- 大学連携事業「子ども大学にっしん」(委託者:日進市)
- 消費者教育講座SDGs(エシカル)(委託者:日進市市民協働課)
- 消費生活センター周知チラシの作成・校正・編集(委託者:日進市市民協働課)
- 下呂市小坂地域連携プロジェクト(委託者:下呂市)
- 大学へのエシカル消費の普及・啓発事業企画室案・実施(委託者:名古屋市)

### 助成金交付事業 (抜粋)

- 国際ソロプチミスト名古屋・栄より助成  
学生団体「ボランティアサークルあじゅあす」による障がい者や高齢者対象のイベントの企画・運営

### その他連携事業 (抜粋)

- 東邦ガス株式会社との連携  
学生団体「エネAS」が、ガスエネルギー館にてイベントを企画運営
- カゴメ株式会社との連携  
学生団体「パスレル」が、カゴメ株式会社への協力依頼として販売計画との乖離で発生した過剰在庫の野菜スープを頂き地域や学内で配布
- コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社との連携  
学生団体「パスレル」が、コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社とNPO法人セカンドハーベスト名古屋への支援自販機の設置協力
- 愛知医科大学との連携  
瀬戸コンソーシアム事業で有志の学生が共同で企画・運営

### メディア掲載情報 (抜粋)

発行日	掲載紙	掲載内容
2022年5月11日	教育学術新聞	学生団体「Buzz-4U」 SDGs啓蒙活動の紹介
2022年6月25日	中日新聞(なごや東版)	学生団体「ASU element project」留学生から外国の歴史や文化を学ぶ
2022年8月10日	中日新聞(なごや東版)	学生団体「tASUkeai」愛知県警察と協同Tシャツ作成
2022年9月1日	ボランティア情報誌 ボラみみ9・10月号	特集ページ「Z世代×防災」
2022年11月1日	ボランティア情報誌 ボラみみ11・12月号	大学生特集ページ 届け、わたしたちのSDGs -こんな活動をしています-
2023年1月1日	ボランティア情報誌 ボラみみ1・2月号	大学生特集ページ 愛知淑徳大学淑楓祭×SDGs
2023年1月8日	中日新聞(なごや東版)	リニモテラス冬祭り
2023年2月19日	中日新聞(豊田市版)	学生団体「そとそと」による獣害問題を考える講演の主催
2023年3月10日	矢作新聞	学生団体「そとそと」に野生獣の活用法を考えるイベント「ジビエフェス」の主催

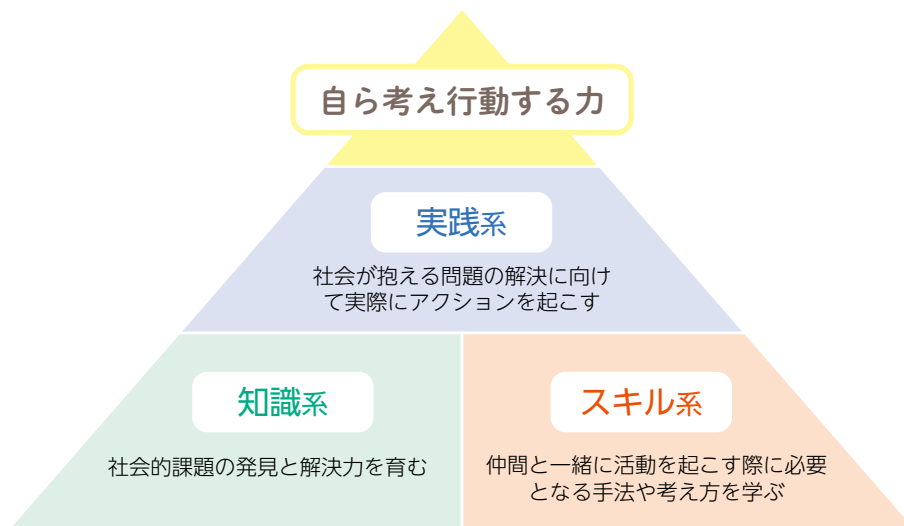
### 3 センターの取り組み

## 3.1 カリキュラム

地域へ、未来へ、走り出す。  
自ら考え行動する力を育みます。

CCCでは、地域と連携して取り組む社会貢献活動に、学生が段階的にチャレンジできるよう「CCC開設科目」を開講しています。ボランティアの基礎知識や様々な事例を学ぶことで社会的課題の発見と解決力を育む「知識系科目」、仲間と一緒に活動を起こす際に必要とな

る手法や考え方を学ぶ「スキル系科目」、社会が抱える問題の解決に向けて実際にアクションを起こすプロジェクト型の「実践系科目」など、多様な科目構成で実際の活動や将来に役立つ知識やスキルを修得します。



### 2022年度 CCC 開設科目一覧

知識系	CCCスタートアップ講座	.....	沖 直子 先生
	ボランティア	.....	沖 直子 先生
	障がい者支援ボランティア	.....	荒賀 博志 先生
	まちづくりマーケティング	.....	沖 直子 先生
スキル系	企画立案の基礎	.....	藤井 勉 先生
	ファシリテーター養成講座	.....	沖 直子 先生、伊澤 令子 先生
実践系	CCCキズナプロジェクトA・B	.....	沖 直子 先生

### 授業報告 障がい者支援ボランティア 荒賀 博志 先生

「障がい者」と聞くと、よくわからないことが多いのが現状だと思います。気にはなるけど、傷つけてしまったらどうしよう、よくわからないから何もできないと思うのは当然だと思います。こう思うのは「障がい者」のことを知らないからだだと思います。授業では、障がいにはどんな特性があるのか(身体、知的・発達、精神障がい)、対応・支援方法はどんなことがあるのかを講義と実技を通してみんなに知ってもらおうと思っています。今年は、実技で車いす介助を障害者ヘルパーステーションで働く職員さんと当事者に来ていただき、車いすに乗って介助される立場と介助する立場の2つを体験しました。視覚障害者のガイドヘルプ体験ではアイマスクをつけて学内を歩くなど、サポートする側と視覚障害者側の2つの立場を体験しました。もうひとつは重度身体障害者の当事者に来ていただき、日常生活をどう過ごしているか、介助される側の気持ちなどの話をさせていただき、学生のみんからの質問にも答えていただきました。実技を体験すること、当事者の話を聞くこと、講義で障がいに対する新しい情報を得ることで、学生の考え方に変化が出てきました。障がい者支援を通じて、学生の視野や考え方が広がり、「お互いさま」という気軽な気持ちで今後、障がいがある

人ない人関係なく、困っている人に積極的に関わっていただけるきっかけになれば嬉しいと思っています。



#### 履修生の声

実践や障がいのある方から直接話を聞ける機会を通して、それぞれの障がいの特徴や支援方法の理解が深まりました。特にアイマスクを利用した視覚障がい者体験や車椅子体験で、実際に当事者の立場を体験することでたくさんのごことに気づけました。今後の生活で障がい者の方の支援をする際は、授業で学んだことを活かしていきたいと思っています。

福祉貢献学部 2年 難波 愛香

### 授業報告 ファシリテーター養成講座 伊澤 令子 先生

受講者一人ひとりが主体的に学び、仲間と学び合いながら、「自分や他者や社会に関わる力」(自己肯定感、コミュニケーション力、合意形成力、対立解決力など)を身につけられるよう、自ら考え、発信し、聞き、話し合い、振り返ることを通じて、ファシリテーションについての学びを提供してきました。授業では、ワークシートを活用した個人ワーク、小グループでの話し合い、協働ワークなどを織り交ぜて進めました。対等で安心感のある雰囲気の中での対話を通して、関わる力・コミュニケーション力を養ってくれれば嬉しいと思っています。



#### 履修生の声

本授業では話し合いを活性化させ、人々の活動が容易に運ぶように支援促進する「ファシリテーション」について学びました。今回はワークショップで使われている手法を実際に体験しながら学んでいきました。そのため、全員が発言しやすい場づくりの大切さや、たくさん出た意見をまとめていく方法などを肌で感じることができました。

交流文化学部 2年 近藤 南帆





この授業は、地域やNPOと連携し実際に活動をおこなうプロジェクト型の授業です。NPO法人ポパイさまと連携し、障がい者のアート展『第3弾ナニコレ?! 誰が描いた展』を商店街の再生をおこなうニシヤマナガヤで開催しました。展示会の展示以外でも新しい挑戦として、即興で創作した『まちなかエンゲキ』では、就活する学生と介護や転職を経験してきたポパイスタッフとの世代を超えた交流を上演し、オープンしたばかりの暮らせる図書館では、保育園から小学校高学年までの子どもたちとクリスマスリースの工作やお話づくりで賑やかな時間を過ごしました。特にこの子どもとの関わりは、連携先からの熱心な要望もいただき、学生団体『NAO～ニシヤマ集まれ、思い出づくり』を設立し、子どもの居場所、多世代交流、商店街活性化などを実践する活動を継続していくことになりました。



履修生の声

「誰が描いた展」を全員で成功させるため、絵や工作やSNS発信など、それぞれの得意を活かして主体的に取り組みました。展示会は多くのお客さんにアートの魅力を伝え、ワークショップは子どもたちと大学生が同じ目線で楽しめる空間をつくりました。授業が終わっても新しい学生団体を立ち上げ、連携してくださった方々と活動を続けていきます。

人間情報学部 3年 夕部 蓮太

この授業は、連携団体のリアルな課題に対して解決するための企画を考え提案する授業です。チームで企画を考え提案資料を作る中で、自分の意見を伝える、相手の意見を聞く、意見をまとめていく協働を体験します。

最初に連携団体から、課題の提示をしていただきます。これまで、考えた課題はNPO法人アジア車いす交流センターさまから「タイの障がい者を持つ家族に向けた支援」、株式会社大翻さまから「アップサイクル商品の販売促進」です。どちらも連携先のNPOや企業が取り組むリアルな課題です。

学生たちが苦勞するのはチームでの協力関係をつくることです。しかしワークを重ねながら中間発表、最終プレゼンに向けてお互いの協力関係ができていきます。最終プレゼンでは連携団体からのフィードバックを受け、自分たちの成果を実感します。授業全体を通して振り返りをおこない、個々人の学びにつなげていきます。

「タイの障がい者を持つ家族に向けた支援」をテーマとした企画では、障がい者との交流を増やすために図書館に交流スペースを設ける案や、障がい者とボッチャのイベントをおこなうなど障がい者理解を核とするものが提案されていました。「アップサイクル商品の販売促進」では、SNSを活用した企画として、具体的な動画の内容が提案されていました。

科目名の「企画立案の基礎」の“基礎”について、テ

クニカルな“基礎”ではなく、何かやってみようと思えるマインドが企画を考える“基礎”だと考えています。この授業を通して何かやってみようと思える学生を1人でも多く育てることを目標におこなっています。



履修生の声

定められたテーマに沿い、チームで社会に貢献する企画を考えることが難しくもやりがいに感じました。特に、企画立案時では方向性の共通認識・企画内容の意義のすり合わせに時間を要しました。等しい共通認識を持つために、自身が感じている問題や思考を相手にわかりやすく伝える方法を模索し、諦めずに話し合いを幾度となく重ねたことが、プレゼンテーションや協調性の向上に寄与したと感じています。社会で必須となる多くの要素を学び習得する機会となり、有意義な体験となりました。

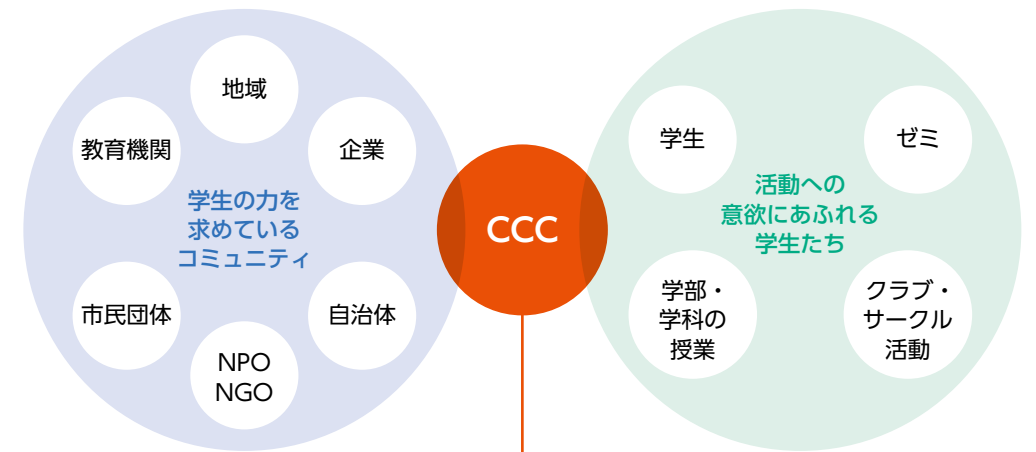
人間情報学部 4年 桑江 愛瑠

## 3.2 活動サポート

みんなが蒔いた「種」を、大きな「樹」に育てたい。  
地域貢献、社会貢献活動をきめ細かくサポートします。

「チャレンジしたい!」と自主活動への意欲が芽生えるきっかけは、個人的な興味・関心、学部・学科の授業、ゼミ活動、クラブ・サークル活動など、学生一人ひとり異なり、活動の目的や内容も多岐にわたっています。そこでCCCは、学生とコミュニティとの出会いをコーディネートし、学生の思いを具体的な活動へと結び付ける橋渡しをしています。

特にCCCを拠点に活動する学生団体には、CCCスタッフが「アドバイザー」として寄り添い、活動を進めていく上で見つかった課題の解決をサポートしています。運営資金をサポートする「チャレンジファンド」(P.17参照)のほか、2015年度からは学外の地域団体とのコラボレーションを実現する「コラボメッセ」(P.5・6参照)を年1回実施するなど、支援制度を拡充しました。



学生とコミュニティをつなぎ、  
様々な地域活動を活性化します

### サポートの3つの形

- (1) 地域の多種多様なボランティア活動へのマッチング ..... 12
- (2) 学生団体などによる自主活動の支援 ..... 15
- (3) 【学内助成事業】チャレンジファンド ..... 17

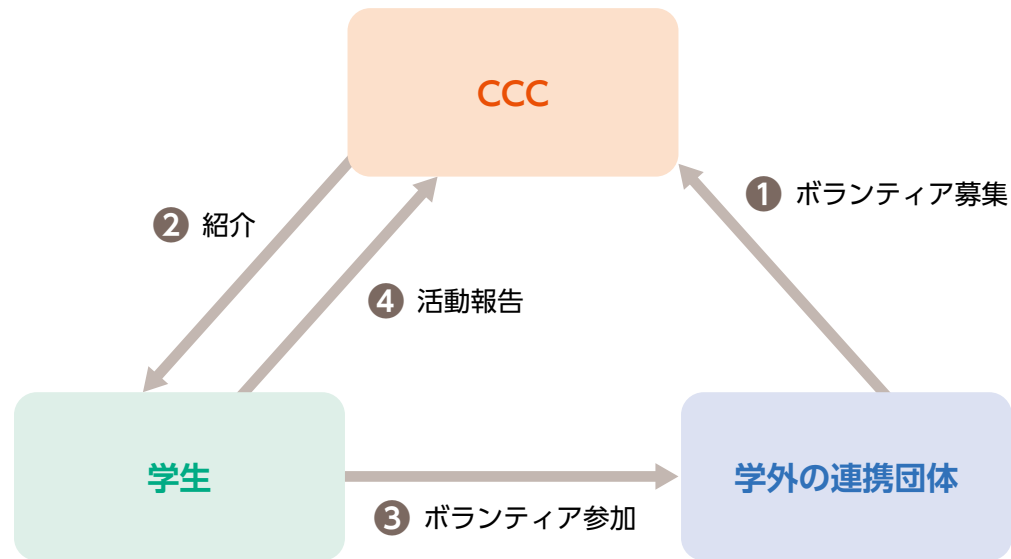
## (1) 地域の多種多様なボランティア活動へのマッチング

自主活動に挑戦する学生の初め的一步として、ボランティア活動への参加があります。

センターでは、ボランティア募集情報の収集、学生への紹介、学生スタッフらによる窓口相談などを通して、マッチングをおこなっています。

ボランティア募集情報は、センターでの掲示のほか、月に2回、全学生に電子発信しています。活動分野は、国際交流・協力、青少年育成、まちづくり、福祉、環境など様々です。2022年度は、延べ1,840人が活躍しました。

### ボランティアコーディネートの仕組み



福祉

### 点字活動

連携先:アイの友 藤井さま

学生コメント

「点字のスーパーのチラシがほしい」この一言が点字を始めたきっかけです。障がいの有無関係なく、その人らしく生活ができるように、少しの支援をするという気持ちで活動しています。活動の中で、ぼらマッチ! なごやというイベントに参加させていただき、点字の絵本を作ることになりました。私たちは、目から情報を入れることが多いですが、点字を使っている方は手に触れる情報だけで文字を読む、絵を想像するということをしています。その違いが難しく、どうしたら伝わりやすいか仲間と試行錯誤し、取り組みました。点字を機械で打つのではダメなのという意見もあると思いますが、一つひとつ打つことで私たちの気持ちがより届くと信じて活動を続けていきます。

福祉貢献学科 2年 吉田 瑞希



福祉

### 子ども食堂

連携先:smile papa-mama-kids 西岡さま 長久手市社会福祉協議会 照会

学生コメント

私が参加している「子ども食堂」では、地域の方々から頂いたレトルト食品を昼食として子どもたちと一緒に食べる活動をしています。ほかにも、工作や外遊び、宿題のサポートをしています。主催者や市の職員の方々と学生で案を出しながら、子どもたちにとって有意義な時間になるように考えています。活動を通じて大切だと感じたことは、目の前の子どもに目の高さを合わせ、一緒に思いっきり楽しむことでした。最初はおとなしかった子が、帰るときには笑顔で手を振ってくれる姿を見ると、楽しい時間になったのだと自信になります。これやりたい! 楽しい! と子どもたちの笑顔があふれるよう、これからも活動を続けていきたいと思っています。

教育学科 3年 原田 涼華



環境

### まざってエコ

連携先:長久手市地域共生課 浅見さま

学生コメント

「エコ」をテーマにしたブースが複数出展されていました。私たちは「サイクルdeエシカル」をテーマに、プラスチック容器のリサイクルに関する紙芝居を作成し、プラスチックトレイをデコレーションした作品を作るというブースを出展しました。小学生の子どもたちに、紙芝居でリサイクルについて説明するというのは難しい部分もありました。クイズ形式を用いたことで主体的に参加してもらうことができ、子どもたちと共にブースを作り上げることができました。また、運営者同士での交流もおこなえたため、今後のボランティア活動にも活かせる場になっていると感じました。

福祉貢献学部 2年 竹田 多英





## フードパントリー

連携先:NPO法人セカンドハーベスト名古屋

### 学生コメント

学生団体「パスレル」は、食品ロス削減を目標としフードドライブや子ども食堂などの活動をしています。学内で学生ができる活動として自販機の設置をおこないました。この自販機は、NPO法人セカンドハーベスト名古屋さまとコカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社さまからお声掛けいただき設置されたもので、売り上げの一部がフードバンクの運用費用に充てられます。また、様々な連携先にお声掛けをしてフードパントリー事業もおこなっています。カゴメ株式会社さまからは野菜スープを頂き、保見団地の朝の子ども食堂などに配布させていただきました。食を必要としている人々に学生が目を向けるきっかけとなってほしいです。

ビジネス学部 3年 戸本 凧都

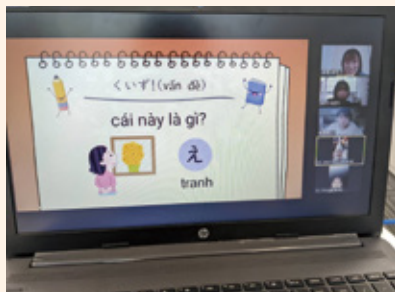


## ベトナム日本語教室

### 学生コメント

ベトナム日本語教室では、ベトナムにいる小学4年生の女の子に、オンラインで日本語を教えています。日本語の教科書を元にパワーポイントで資料を作り、毎週1時間の勉強をおこなっています。初めは日本語がほとんどわからない中で、説明が伝わったのか不安になったこともありましたが、しかし一生懸命学ぼうとするその姿に精一杯応えたいと思い、よりわかりやすくなるように、使う言葉や見てわかる資料作成などの工夫をしてきました。毎回日本語が上達していく様子に、距離は離れていてもしっかり届けることができるのだと嬉しく思いました。これからも一緒に日本語の勉強を続けていきたいです。

交流文化学科 2年 後藤 あい



## (2) 学生団体などによる自主活動の支援

ボランティア活動への「参加」に留まらず、同じ社会問題に共感する学生たちが集まり、課題解決に向け、自主的に活動しています。

CCCを基盤に自主活動をおこなっている学生団体を「CCC学生団体」とする、登録制度を設けています。その数は現在、約30団体。そのほとんどが、学生のみではなく、地域の市民団体・福祉施設・企業などと連携

して活動しています。

CCC学生団体にはスタッフがアドバイザーとして就き、活動の「伴走者」としてサポートします。また、自分たちの体験を振り返るための自己点検報告書を共に作成し、支え合いながら活動を改善・継続できる仕組みを構築しています。

### あすてく

学生団体「あすてく」は、学内の障がい学生を支援する活動をしており、主に聴覚に対する支援を軸としています。私は、あすてくに入ったことで、UDトーク・IPトークの使い方や支援の仕方の知識、聴覚に関する様々な団体との関わりを通じて多くのことを学びました。その中で、障がいに対する考えも変わりました。聞こえなくても、会話の手段が変わるだけで楽しくコミュニケーションは取れます。そのため、少しの工夫は必要だけど、障がいなどは関係ないというのが私の考えです。海外の方と日本語以外の言語で話したり、翻訳アプリを使ったりするのと同じです。相手にだけ求めるのではなく、自ら工夫するだけで誰もが過ごしやすい社会に近づくとと思います。

人間情報学部 3年 渋谷 心音



### あじゅあす shukutoku café

学生団体「ボランティアサークルあじゅあす」では、毎月1回おこなわれているshukutoku caféに参加しています。shukutoku caféでは学内に設置したカフェスペースで、高齢者の方と一緒にコーヒーを飲みながら会話したり、レクリエーションを企画したりしています。皆さんとふれあうことで感じる「楽しい!」という気持ちや、誰かの役に立てる喜びが、もっと頑張ろうという活力につながっています。活動を通して、一人ひとりの違いを受け止め、互いに認め合う姿勢が身についたことは、小学校教員をめざす自分にとって、知見が広がる貴重な経験になりました。共生社会といわれる今、「高齢者や障がいのある方と共に生きていくことは」「自分たちに何ができるのか」を子どもたちに伝えられる教員になれるよう、ボランティアの経験を活かしていきたいと思っています。

文学部 4年 和田 和久





## サイクルdeエシカル 名古屋市受託事業

エシカルを知ってもらうだけでなく、エシカルな消費を促すことを目的としたSDGsマルシェ「サイクルdeエシカル」をおこないました。

第1回目は、11月20日に星が丘テラスにて開催しました。星が丘テラスに店舗を構える障がい者雇用をおこなっている「久遠チョコレート」さま、使われなくなったバッグなどを回収し新しく生まれ変わった商品の展開や開発途上国の雇用支援をおこなう「マザーハウス」さま、フェアトレードによって輸入した絹雑貨や食品を取り扱う「ほほほ」さま、地産地消・規格外野菜をより扱っている「葵マルシェ」さまにもご協力をいただきました。

また、「淑徳ブース」として出店したワークショップスペースでは、豊島株式会社さまの「FOOD TEXTILE」を使用した風呂敷ワークショップ。花王カスタマーマーケティング株式会社さまには、「みんなが幸せになる原材料調達」をテーマに講座をしていただきました。さらには、敷島製パン株式会社さまと学生とのプロジェクトで生まれた学生チーム「チームパスコ」による国産小麦の紙芝居の読み聞かせをおこないました。



活動を通じてエシカルが浸透するには“当事者意識”が一番大切だと感じました。子どもたちは学校教育の中でエシカルが正解と学んでおり、親世代は大量生産大量消費こそが正解の世の中で生きてきました。だからこそSDGsに対して、ある意味の当事者意識があります。祖父母世代は循環型社会を生きていて生活の全てがエシカルでした。しかし、私たち大学生はどこにも属さない少しフワとした場所におり、一番当事者意識が薄いのではと考えました。

それぞれの世代で、それぞれに合った方法でエシカルを生活の中に落とし込むことが必要だとこの活動を通じて実感しました。私はこの活動をずっと続けることで、エシカル社会の実現に貢献していきたいと思います。

交流文化学部 3年 本田 早伽



## (3)【学内助成事業】チャレンジファンド

CCCでは、学生による様々な自主活動を助成する「チャレンジファンド」を設けています。地域のニーズや思いに応える活動、社会的に意義の高い活動に対して、愛知淑徳大学後援会の協力を得て、資金面での助成と活動サポートプログラムの提供をおこなっています。

2022年度は、「一般部門(助成額上限10万円)」において、公開プレゼンテーション及び学内の教員たちによる審査の結果、6団体が採択され、それぞれの活動を展開しました。



### 2022年度チャレンジファンド採択団体一覧

※法人名省略

団体名	活動内容	主な連携先
アミーゴ	県外の外国人児童を対象に多読活動、学習支援、就学前指導に取り組む。	シェイクハンズ 西尾市教育委員会
エコのつぼみ	環境啓発活動に加え、里山保全を支援するため、ワークショップを企画・実施する。	モリビトの会
きらきら☆したら	愛知県設楽町の魅力を伝えることを目標に、現地と交流しながらイベントなどを企画・実施する。	設楽町
チームわんわん	小学校での授業やワークショップを介助犬の認知度・理解拡充を図る。	日本介助犬協会
ユニこまPlus+	障がいのある人の服のリメイク活動と、各小学校のトワイライトスクールでのポッチャをおこなう。	名古屋市トワイライトスクール、 AJU自立の家・きららハウス
Fsus4	高齢者施設と障がい者施設に演奏しに行ったり、演奏を収録したDVDを贈り、交流を通じてつながることで、相互に理解を深める。	愛知たいようの社、 森孝しぜんかん



4

## 学生スタッフの活動

学生スタッフは、同じ学生という目線から、学生の持つ様々な思いを形にする重要な役割を担っています。

会話を通して、一人ひとりの個性を活かし、新たなチカラを共に発見するお手伝いをしています。

また、ボランティア紹介業務だけでなく自ら企画などもおこなっています。



### 2022年度 学生スタッフ

#### ■ 長久手キャンパス

- 梅津 真衣 (健康医療科学部 4年)
- 神谷 結衣 (健康医療科学部 4年)
- 北村 紗英 (人間情報学部 4年)
- 山下 珠伶 (福祉貢献学部 2年)

#### ■ 星が丘キャンパス

- 岩井 祐斗 (交流文化学部 4年)
- 仲嶋 里帆 (ビジネス学部 4年)
- 中島 梨緒 (交流文化学部 3年)
- 山本 羽奈 (交流文化学部 3年)
- 後藤 あい (交流文化学部 2年)



### オープンキャンパスの様子

オープンキャンパスに来てくださった高校生や保護者の方々に、CCCについて・ボランティア活動についての説明をさせていただきました。私たちが日々おこなっている活動を写真や資料を通して見ていただき、ボランティア活動を身近に感じてもらえるようにお話しをしました。お話しをしていく中で、高校生の方が「ボランティアをやってみよう」と言ってくださり、とても嬉しかったです。

ビジネス学部 4年 仲嶋 里帆



### 皇學館大学との学生スタッフ交流会

皇學館大学の方々は、ボランティアを探している学生とボランティアを結びつける、ボランティアルームについてお話ししてください、私たちはCCCについてや、学生スタッフの役割・活動などをお話ししました。その後、それぞれの良い点や課題を話せたことで、私自身の改善点や、CCCが学生にとってより活用しやすくなるヒントを得ることができました。

福祉貢献学部 2年 山下 珠伶



### 卒業する学生スタッフのコメント

CCCでは普段生活しているだけでは関わらないような方々と出会うことができました。その人の価値観にふれることで視野が広がり、自分とは異なる意見が多く存在していることを学びました。これからは社会人となり、様々な考えを持った人々と関わることにはなりますが、CCCで学んだことを活かし、考えを受け入れることができるような人になりたいと思います。

健康医療科学部 4年 神谷 結衣



子ども・環境・福祉など地域に出て様々な分野にふれたからこそ、みんなで一つの目的に向かって頑張ることや、多様な価値観を持った人とつながることの大切さを学びました。活動を通して、将来を具体的に考えることもできました。CCCでの経験、出会いは一生の宝です。4年間CCCで活動して学んだことを、これから社会人として活かし、様々な人に寄り添える人になりたいです。

人間情報学部 4年 北村 紗英



5

センター長より

## 2022年度 全体講評



コミュニティ・コラボレーションセンター  
センター長 森 博子  
(人間情報学部 教授)

2022年度も新型コロナウイルス感染症の流行は終わらず、しかし世の中が少しずつコロナ禍前の状況に戻りつつあったため、CCCでも感染対策を万全にして対面での活動ができるようになってきた年でした。

大学での学びを活かした様々な活動(例えば、学習支援や環境問題に関する取り組み)、そして、CCCの大イベントである「コラボメッセ」も3年ぶりに対面で実施でき、地域や企業の方と共に学生たちは生き生きと活動ができました。一方で、遠隔での活動をやめたわけではありません。オンラインで勉強会をしたり、

遠方の人たちへの支援活動に利用したり、コロナ禍で得た知恵を活かして継続しました。これらの取り組みは広く認められ、新聞社の取材を何度も受けました。

以上のように、対面と遠隔の両方の活動で大忙しでしたが、とても有意義な1年になりました。これも、地域の皆さま、企業・団体・行政の皆さま、学内外の教職員の皆さまより、貴重な機会を与えていただいたおかげです。ここに深く感謝いたします。今後も、ご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

6

## 初めてボランティアを募集される方へ

当センターでは、ボランティア募集情報の取り扱いについて、「ボランティア情報の取り扱いに関する方針」を基本としています。

ボランティアを募集される場合は、まずはHPでご確認いただき、お電話でご連絡ください。

URL <https://www.aasa.ac.jp/institution/ccc/volunteer/01.html>

2022年度 CCC運営委員		スタッフ	
●委員長	森 博子 (人間情報学部)	●長久手キャンパス	●星が丘キャンパス
	三 和 義 武 (文学部)	内 山 恵	秋 田 有加里
	西 出 隆 紀 (心理学部)	沖 直 子	日比野 愛
	柳 井 貴 士 (創造表現学部)	山 本 愛	伊 藤 菜々子
	山 本 周 史 (健康医療科学部)	石 塚 千 夏	
	田 中 勝 (福祉貢献学部)	柴 田 真里亜	
	二 文 字 屋 脩 (交流文化学部)		
	上 原 衛 (ビジネス学部)		
	大門ゴーフ 裕子 (グローバル・コミュニケーション学部)		